

「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 6 日（日） 11:00～12:00

国土交通省ハッ場ダム工事事務所川原湯総合相談センター

発言者：意見発表者 1

前橋市の●●と申します。所属は地方公務員です。よろしくお願いします。

今回は素案についての住民の意見ということですので、学術的なこと、専門的な事柄については触れません。地元の生活再建についてもあえて触れぬこととします。一般の住民ということですので、詳しいことはわかりません。さて、関係地域の住民としまして、今回の素案で特に重視していただきたいことが2つあります。1つ目は計画どおりの期間と予算で確実に完成することの出来る案を選択してほしいということです。素案でもコストや実現性について挙げてはいるんですけど、現在進行中のダム案でさえ数回の計画変更があり、そのたびに工事完成が遅れたり、経費がふくらんだりしていますので、素案に出てくる案のコストや実現性がどこまで厳密に計算されたものなのか不安な点があります。2つ目は地すべりとか工事に関する土木災害、それから火山災害等の自然災害の危険性が指摘されていますので、これらの不安のない案を選択してほしいということです。気象庁が中心になっていると思うんですけど、国と地元自治体で組織している浅間山火山防災対策連絡会議というのがありまして、ここでは冬場の積雪時の冬場に噴火が起きた場合には、融雪型火山泥流というのが発生して大きな災害になるというのが指摘されているのですけれども、ちょうどこの積雪期というのが、ダム計画ですとダム湖が満水の時期になりますので、ダムが泥流を押さえるどころか被害を拡大させる恐れがあるんじゃないかと思えます。具体的には泥流の第一波が来て、ダムのえん堤に跳ね返ったところに泥流の第二波が来ますと、泥流の逃げ場が無くなって、兩岸の岸に行ったり、上流に遡ったり、支流に逆流したりということがあるかと思うんですが、満水の状態で流入になりますので、ダムのえん堤のかなり高い位置まで泥流が行くだろうと。そうすると高台など代替地だって、安全じゃないし、町の中心市街地も安全じゃないのかなって言うことも考えられます。このような融雪型火山泥流というようなものについて、行政機関同士の情報共有がどのように働いていくのか、どのような対策がこうじられているのか、ということについて不安を感じました。それとすでに実施済みのダム関連事業の中のバイパスのトンネル工事なんかにおきましても、いってみれば、ボーリング調査と致しまして横方向におきましても巨大なボーリング調査によるものだと思うんですけど、これによってダム関連地域の地質の状況について、従来のボーリング調査では得られなかったような成果が得られていると思います。このような最新の知見が素案ではどのように反映されているかというのがわからない。素案ではわかりませんでした。ダムの工事関係者の実際に掘った人の「また聞き」なんかだと大変な難工事だった、予想外の難工事だったという話もあります。以上を踏まえた上での素案の感想なんですけれども、素案の前半部分になるんですけど、ハッ場ダムというのはもともと利根川を総合的にコントロールするという目的から始まっていて、そのために利根川の本流が沈み、ダムや堤防、遊水地などの各種の利水・治水施設が整備されているわけですけども、全体的な計画の中で見ますと、総貯水量1億tというハッ場ダムの大きさと位置が非常にアンバランスに思えました。一つのダムに負担がかかりすぎているということなんですけれども、利根川を総合的

にコントロールするためには、本流や各支流に河川の規模に応じたダムをバランスよく配置し、それ以外の治水利水施設と連動させて運用するというのが本来のあるべき姿だと思うんですが、それは今から私が申し上げるまでもないですし、こういう理想通りにできる分けでもないですけども、素案を見てみますと、河道掘削案や渡良瀬遊水地案などありまして、コストや実現性を検討していますので、実現可能な範囲で堤防や遊水地等の整備をいっそう進めることでより本来の形に近づけることが出来るのではないかと思います。ところで八ッ場ダムの最大の問題点は大きすぎることにあると思います。周りの地形を眺めて行きますと、1箇所をふさぐだけで大量の水をためることが出来るので、大きなダムを造りたくなるのはわかるんですけども、地元の長野原町の中心市街地の直ぐ近くまでダム湖がそのまま隣接し、いくつもの集落が水没してしまうわけですね。ダム関連工事の遅れとか土木災害自然災害の被害の大きさについてもダムが大きすぎるのが原因だと思います。利根川水系の総貯水量で1億 m³クラスのダムを造るというのは、他には矢木沢ダム下久保ダムがあるわけですが、どちらとも状況が違うと思います。大きすぎるダムというのは予備放流の際のダム湖の水位のコントロールも容易ではないかと思えます。以上から考えますと、検討案が入っていなかった案が考えられるんですけども、ダム本体の規模を設計変更して総貯水量1億 m³ではなくて5千万 m³クラスに縮小して、それ以外の治水利水施設を整備して、それらを連動させて運用していく。素案ですと最初からダムありかダム無しの二者択一から始まってしまっているんですけども、ダム有りに河道掘削案や遊水地案を実現可能な範囲で組み合わせる案もあると思います。実際、八ッ場ダムも最初の計画の時は確か7千万 m³クラスのダムだったんじゃないかと思えます。すでに計画変更も何回もやっていますので、ダムの規模を縮小する方向での変更というのもあるかと思えます。これに現在の工事の進捗を活用することも出来ると思います。具体的な話としては、たとえばダム本体工事中には仮排水トンネルに河川を迂回させるために一時的に小さなダムを上溪流締切施設というのをつくるはずですけども、その小さなダムは本体完成後には取り壊されるわけで、つまり、巨大なダムと小さなダムを二種類造って小さな方は取り壊されるわけですけども、本体ダムを縮小することで、施設がひとつで済むことになるのではないかと思います。言ってみれば第二八ッ場ダム計画に対して、法律上はダムではなくて堰になってしまうかもしれません。同じようなものとしては、沼田ダムが建設中止になったときに、現在小規模な綾戸ダムというのがありますけれども、沼田ダムと綾戸ダムの関係は単純なものではないと思いますけれども、参考にはなると思います。ダム計画が小さくなくても、地形を断面で見た場合、巨大なU字型の地形になっていますので、河川敷の水没する範囲等位はそれほど変わりませんので、買収済みの用地については生かせると思います。ダム湖を小さくすることで、災害の際の被害を小さくすることも出来ると思えますし、貯水量が減るので、周囲への水圧も軽減されまして、地すべり等も減るのかなと思いました。ダム本体工事の縮小に合わせて、ダム関連工事の範囲というのも縮小して、いくつかの工事については切り離して、別工事にしてしまった方がよいのではないかと思います。実際に国道の付替工事については国道のバイパス建設工事でありまして、バイパスの建設工事でしたら、どこの市町村でも行われていますので、必ずしもダムに関連するものではないと思います。湖面二号橋の高さというのはダムのための高さではなくて、高台にある集落をつなぐ高さということですね、町の中心市街地に合わせた高さですので、あれはダムがあろうが無かろうが、あの高さになってしまうのだと思います。同様に、老朽化した国道の付替工事というの、鉄道の高架工事というの、よその市町村では行われています。代替地の造成でさえ、区画整理事業と考えれば、ダムと切り離して実施することが出来ると思えます。国道で考えても、渋川方面から中之条バイパスそれから吾妻の群馬原町バイパスを飛ばして長野原バイパスと言ってみて、ダムと関連しているがためにかえって国道のバイパス工事ととらえて、地域整備が遅れています

ので、むしろ総合特区的な感じですかね、その特定地域の社会資本を集中的に整備するというような総合的な事業としてしまった方が、その事業なりの進捗状況で示されると思いました。別事業とすることで、本来のダム事業が見えるということになって、検討がしやすくなると思います。以上の案を一言で言いますと、今ある状況を最大限に活用しつつ、基本に戻ると言うこととなりますけれども、ここまでダムの問題がこじれてきますと、とりあえず基本に戻ると言うことも一つの原則であると思いました。みなさんもダムありかダム無しの二者択一から入っていると思うんですけども、そもそもの目的というか、利根川の総合的なコントロールということから考えると、別の選択といたしますか、ダムを小さくするという選択もあると思うんですが、こういった案が素案の中には加えるべきだったんじゃないのかなと思ったのですが、それが素案のなかに加わってなかったことについては残念に思います。というのが私の意見になります。そこで冒頭に戻りますが、素案がこのようにできあがっている以上、確実に予定通りに完成できる案、災害の不安のない案を採用してほしいというのが私の意見です。

以上